

事業プログラム企画運営研修講座

職員研修
有志指導者研修
要請研修

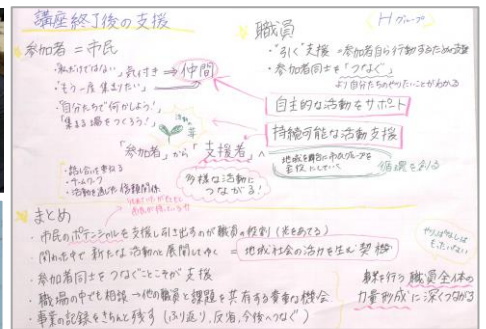
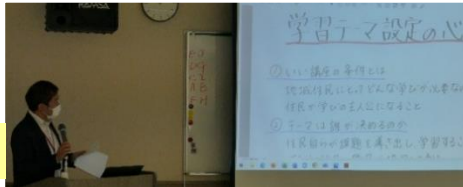
この研修講座は、地域に根ざした事業プログラムを企画・運営するための基本的な考え方や住民参画による講座づくりの重要性を学ぶことを目的に、各市町村で事業に直接携わる方を対象に実施しました。47名が受講し、講義と演習を通して学びました。

【演習】「住民参画の講座づくりー学習プログラム構成のポイントー」

弘前大学教育学部 准教授 越村 康英（こしむら やすひで）氏からご指導いただきました。まず、「住民参画の講座」をつくるプロセスを5つの段階（「①学習テーマの設定」「②学習プログラムの構成」「③広報・宣伝」「④準備・運営」「⑤講座終了後の支援」）に分け、それぞれの段階での留意点や大事にしたいことをグループで話し合ってもらいました。その過程で、参考資料を読み、講座づくりの基本を改めて学ぶこともできました。次に、各グループが話し合ったことを発表しました。どのグループの発表も、講座づくりの段階ごとの留意点だけでなく、日々の業務で感じている課題を解決するための方法についてもまとめられた内容となっており、お互いの発表から学び合うことができました。



演習での話し合い・発表の様子



グループでまとめた資料

【講義】「地域に根ざし魅力的な講座を企画するために」

引き続き越村氏から、社会教育指導員として事業の企画・運営にあたってご経験や他県の事例紹介を交えてご指導いただきました。『「実際生活に即する」学びにこだわった事業構想」「住民参画を基本とした事業づくり」「ともに学ぶ姿勢と事業後の支援」「事業評価の積極的意味をとらえ、評価の取り組みを活かす」という4つのポイントについて、受講者は演習での学びを生かし、さらに理解を深めることができました。



越村 康英 氏

《受講者の声》

- 事業を企画する際には、市民参画、主人公が誰なのかに留意していきたい。
- 系統立てて学習を進めていくことで、参加者はもちろん、職員や講師も成長し合えるものだとわかった。
- 公民館や市民センター主導の講座開催がマンネリ化している状況だった。原点に立ち返ることができて、とても有意義だった。

《受講者の評価》

A（有意義）	82.2%
B（どちらかといえば有意義）	17.8%
C（どちらかといえば有意義でない）	0%
D（有意義でない）	0%

《担当者（高橋）から》

参加された皆さんの、「住民参画」に対する目的意識の高さを感じられました。日々の業務の情報交換も意義が大きかったのではと感じました。